2012年1月27日

財団法人長野経済研究所

長野県の産業天気図

－ 産業別四半期見通し調査結果（2012年1－3月期見通し）－

県内主要15業種の現況（2011年10-12月期）と見通し（2012年1-3月期）調査を実施した。

◇ **2011年10－12月期の現況**は、全15業種中、『晴れ（好調）』、『薄日（順調）』は該当業種なし、『曇り（普通）』は6業種、『小雨（低調）』は5業種、『雨（不調）』は4業種となった。前回に比べ『薄日（順調）』と『曇り（普通）』の業種数が減少した一方で 『雨（不調）』が増加した。

◇ **2012年1－3月期の見通し**は、全15業種中『晴れ（好調）』は該当業種なし、『薄日（順調）』が1業種、『曇り（普通）』が4業種となり、『小雨（低調）』が4業種、『雨（不調）』が6業種となった。

◇今期（10-12月期）は、製造業では東日本大震災後の持ち直しの動きが一服したことに加え、海外経済の減速や円高の進行などにより輸出や生産活動が弱含みに転じた。一方、非製造業では個人消費に底堅さがみられたほか、建設業では出遅れていた公共工事が動き出した。

◇今後については、東日本震災からの復興需要が景気を下支えし、緩やかな回復を続けると予想されるが県内への波及は小さいとみられる。製造業では、欧州景気の減速や中国の成長鈍化を背景に、景気回復の先行きへの不透明感が強まっており、来期の業況は悪化する見通し。また、輸出の低迷やタイ洪水被害からの復興長期化など外需の動向次第では景気を大きく下押しする懸念がある。

◇ 非製造業では経済対策への期待もあり個人消費は底堅いことが予想されるが、首都圏を中心とした東北への観光キャンペーンなどにより県内への観光客の減少が懸念される。国内海外を問わず、県内企業が需要を積極的に取り込むための一層の努力が求められよう。

＜産業別の天気図と見通し＞

業 種	今期（10-12月期）	来期（1-3月期）	業 種	今期（10-12月期）	来期（1-3月期）	業 種	今期（10-12月期）	来期（1-3月期）
一般機械	曇り	→ 曇り	食料品製造	小雨	↘ 小雨	公共工事	小雨	→ 小雨
情報通信機器	小雨	↗ 小雨	機械器具卸	曇り	↘ 曇り	民間工事	雨	↘ 雨
電子部品デバイス	雨	↘ 雨	大型小売	曇り	→ 曇り	旅客	小雨	↘ 雨
精密機器	曇り	↘ 小雨	自動車小売	曇り	↗ 薄日	貨物	雨	↘ 雨
自動車用部品	曇り	→ 曇り	ガソリンスタンド	雨	→ 雨	ホテル旅館	小雨	↓ 雨

業界天気図

＜現況＞ 晴れ（好調）　薄日（順調）　曇り（普通）　小雨（低調）　雨（不調）

＜見通し＞ ↑ 上昇　↗ やや上昇　→ 横ばい　↘ やや下降　↓ 下降

照 会 先
財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：宮前、中村（信））
TEL 026-224-0501

長野県の産業天気図（県内主要15業種の動向）

― 産業別四半期見通し調査結果（2012年1～3月期見通し） ―

＜産業別調査結果＞

現況（10－12月期） 天気図記号	15業種中（カッコ内は前期）	見通し（1－3月期） 天気図記号	15業種中
晴れ（好調）	0業種（0業種）	上昇	0業種
薄日（順調）	0業種（2業種）	やや上昇	2業種
曇り（普通）	6業種（7業種）	横ばい	5業種
小雨（低調）	5業種（5業種）	やや下降	7業種
雨（不調）	4業種（1業種）	下降	1業種

	業種	前期（7－9月期）	今期（10－12月期）		来期（1－3月期）	1-3月期見通し
製造業（6業種）	一般機械	曇り	曇り	横ばい	曇り	受注持ち直し続くも、先行き慎重姿勢強まる
	情報通信機器	曇り	小雨	やや上昇	小雨	車載向けが下支えするも、低水準の受注が続く
	電子部品・デバイス	小雨	雨	やや下降	雨	民生品需要の低迷から、受注水準は低下見込み
	精密機器	薄日	曇り	やや下降	小雨	海外需要の減少により、受注の下押しが見込まれる
	自動車用部品	薄日	曇り	横ばい	曇り	完成車メーカーの生産回復に伴い堅調な受注が続く
	食料品製造	曇り	小雨	やや下降	小雨	生産コスト増加による収益悪化を懸念
非製造業（9業種）	機械器具卸	曇り	曇り	やや下降	曇り	海外向けを中心に新規受注の鈍化が見込まれる
	大型小売	曇り	曇り	横ばい	曇り	生活必需品を中心に、底堅く推移
	自動車小売	曇り	曇り	やや上昇	薄日	年度末の需要期に向けて販売増加に期待
	ガソリンスタンド	雨	雨	横ばい	雨	灯油需要に期待するも、収益環境は厳しい
	公共工事	小雨	小雨	横ばい	小雨	労務単価の上昇による採算悪化が懸念される
	民間工事	小雨	雨	やや下降	雨	住宅取得支援策に期待するも、低水準にとどまる見込み
	旅客	小雨	小雨	やや下降	雨	利用客の出足が鈍く、低調推移を見込む
	貨物	小雨	雨	やや下降	雨	貨物量の低迷と燃料価格の高値推移を懸念
	ホテル・旅館	曇り	小雨	下降	雨	集客要因に乏しく、利用は低調

業界天気図

＜現況＞ 晴れ（好調） 薄日（順調） 曇り（普通） 小雨（低調） 雨（不調）

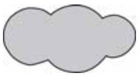
＜見通し＞ 上昇 やや上昇 横ばい やや下降 下降

■調査内容：「業界の現況」、「業界見通し」は、県内対象企業経営者が業界景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

■調査期間：2011年12月中旬～2012年1月上旬、調査対象企業・・・県内主要企業15業種の136社

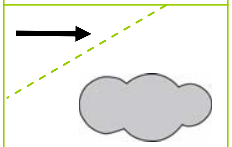
一 般 機 械　：　受注持ち直し続くも、先行き慎重姿勢強まる

現　況



工作機械は、欧米向けがほぼ前年並みで推移した。中国向けは人件費高騰による省力化装置などの引き合いが増加したが、金融引き締めの影響で受注は減少した。国内向けは自動車の生産回復に伴う受注増加がみられた。半導体関連機械は、パソコンや薄型テレビ等の世界的な需要鈍化を受け伸び悩んだ。建設機械は、中国向けが不動産投資規制の影響で新規受注が鈍化した。中国を除く新興国向けが堅調に推移したほか、主力の欧米向けも住宅や道路工事用の小型建機を中心に前年並みの受注を確保した。

見通し



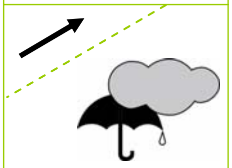
工作機械は、欧州向けが景気減速懸念などから受注鈍化が見込まれる。中国向けも弱含みで推移する見通し。国内向けは設備投資の引き合いがみられるものの、円高などによる先行き不透明感が高まっており、慎重姿勢が強まる見通し。半導体関連機械は、パソコンや薄型テレビ等の需要が減少しているが、アジア向けを中心に底堅い需要を見込む。建設機械は、インフラ整備が進む新興国において需要拡大が見込まれる。国内向けは、震災復興に伴う受注増加が期待される。

情報通信機器　：　車載向けが下支えするも、低水準の受注が続く

現　況

無線機器はホームセキュリティ向けの受注が安定している一方、産業機械向けの受注は企業の設備投資が鈍化したため減少傾向となった。車載向け機器は一部で生産調整があったものの、自動車生産台数の増加に伴い部品受注も好調に推移した。ストレージ（外部記憶装置）は新規、メンテナンスともに引き合いが少なく低調だった。大型プリンタは海外向けが円高の進行や中国の金融引き締めが影響し、販売台数、売り上げともに伸び悩んだ。国内向けもユーザー企業の買い替え需要が乏しく弱含みとなった。

見通し



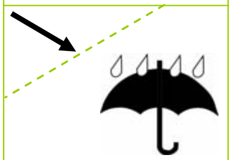
無線機器は産業機械向けでタイの洪水被害に伴う復旧需要が期待されるものの、設備投資の動きが鈍く弱含む見込み。車載向け機器は完成車メーカーの増産によって、関連する部品受注も増勢が続く。ストレージは年度末にかけて新規の引き合い増加とともに、官公庁向けでメンテナンスの駆け込み需要が見込まれる。大型プリンタは本体に加え、インクなど消耗品も海外向けを中心に低調な推移となる見通し。用途別の受注環境にバラつきが大きいため、好調な車載向けが下支えするものの、業界全体では低水準の受注が続く。

電子部品・デバイス　：　民生品需要の低迷から、受注水準は低下見込み

現　況

クリスマス商戦の需要期となったが個人消費の低迷から国内、海外ともに盛り上がりを欠き、デジタル家電など民生品向けの受注は低調に推移した。加えて、タイの洪水で被災したセットメーカーの操業停止も受注の下押し要因となった。自動車向け受注もサプライチェーンの寸断が影響し、部品メーカーの生産水準を押し下げた。産業機械向けはこれまで堅調だった省エネ・環境機器関連が海外需要の低迷に伴い弱含んだ。輸出企業では受注低迷に加え、円高進行によって販売価格の下落が進み、売り上げ、収益ともに低下した。

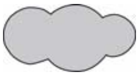
見通し



民生品向けの受注は不需要期となるため、スマートフォン関連の部品を除き弱含む見通し。また、商戦不振からセットメーカーの在庫水準も高くなっており、受注下押しの一因となる見込み。産業機械向けは設備投資の慎重姿勢から受注低迷が続く。自動車向けはサプライチェーンの正常化にあわせ底堅い受注が見込まれる。業界全体では民生品需要の低迷から、部品メーカーの受注水準は低下するとみられる。加えて、欧州の財政問題など海外景気の先行き懸念が強まっており、市場を下支えしてきた海外需要の低迷が見込まれる。

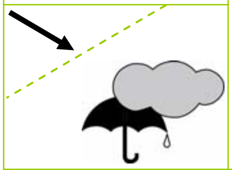
精 密 機 器　：　海外需要の減少により、受注の下押しが見込まれる

現　況



光学分野では、スマートフォン関連の部品が受注、売り上げともに好調に推移した。デジタルカメラ関連では、タイの洪水に伴い一部で生産調整がみられた。クリスマス商戦では、欧州市場などでミラーレス一眼の認知度が高まり、受注増加となった。一眼レフ向けは低価格志向が強まり、販売台数に比べて売り上げが伸び悩んだ。半導体・液晶関連などの産業機械用途は、海外需要の減少や円高進行により受注が減少した。計器類は建機用センサー類が震災復興に伴う国内需要の増加から、底堅い受注を確保した。

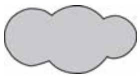
見通し



光学分野では、スマートフォン関連で増勢が続くものの、部品供給量の増加に伴い単価引下げの動きが見込まれる。デジタルカメラ関連は、アジア市場などで底堅い需要が期待される。しかし、不需要期に入ることに加え欧州や米国での需要減少から、受注は弱含む見通し。産業機械用途も、海外需要の減少による受注低迷が続く。計器類は、建機向けがアジア市場を中心に堅調に推移するとみられる。全体では、季節的要因による在庫調整と、欧州の景気減速や円高の進展に伴う海外需要の減少から、受注の下押しが見込まれる。

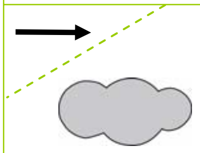
自動車用部品　：　完成車メーカーの生産回復に伴い、堅調な受注が続く

現　況



完成車メーカーの生産回復に伴い、ハイブリッド車など低燃費車向けを中心に国内向け受注が堅調に推移した。しかし、当初限定的とみられたタイの洪水被害の影響は大きく、部材の調達難などから完成車メーカーが生産調整を実施したため、受注水準は予想以上に落ち込んだ。また、仕入先企業の被災により調達先を一部変更したことで生産コストが上昇し、収益を下押しした。海外市場では中国などアジア向けの受注が底堅く推移した。補修用部品は震災の被災地を中心に中古車の需要が高まったことから堅調に推移した。

見通し



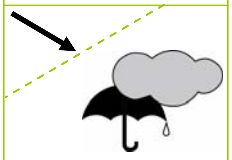
完成車メーカーの生産回復に伴い、国内の自動車生産台数は増加基調で推移するとみられ、部品受注も増勢が見込まれる。また、閣議決定されたエコカー補助金が買い替え需要を喚起することで受注増加が期待される。一方、海外市場は中国の成長鈍化や、円高の進展による販売価格の下落が懸念される。加えて、海外拠点における現地調達比率の上昇から、国内部品メーカーの受注環境は厳しくなる見込み。補修用部品は中古車販売に伴うメンテナンス需要の高まりから、底堅い受注となる見通し。

食料品製造　：　生産コスト増加による収益悪化を懸念

現　況

冬場の需要期となる味噌や豆腐は気温の高い日が多かったため出足が鈍く、売り上げは伸び悩んだ。製粉はそば粉で年越しそばの需要があったが、原材料価格の上昇を販売価格に転嫁したこともあり、販売量は例年をやや下回った。即席食品は非常食用の商品が堅調に推移した。加工肉は歳暮需要から贈答用商品の販売量が増加した。為替予約により足元の円高メリットを享受できず、輸入原材料の仕入価格は高値圏で推移した。加えて、国産農産物の一部も天候不順から高騰し、収益を圧迫した。

見通し



味噌は需要喚起のため新製品を投入する動きもみられる。豆腐や関連商品は冬場需要が続くため底堅い推移が見込まれるが、低価格化が進むことで売上高は軟調に推移する見通し。即席食品は消費者の健康志向から、食材の栄養分が多く保たれるフリーズドライ製品の需要増加が期待される。全体では原材料の仕入価格の高止まりに加え原油価格の上昇も懸念され、生産コストの増加が予想される。しかし、小売店での価格競争の進展から販売価格への転嫁は一部にとどまるとみられ、収益悪化が懸念される。

機械器具卸　：　海外向けを中心に新規受注の鈍化が見込まれる

現　況

工作機械は、自動車生産の回復に伴い関連機械の受注が増加したほか、工具類なども堅調に推移した。配電盤やFA機器など工場設備向け機器の受注は前年並みを維持したが、円高などによるメーカーの先行き慎重姿勢の強まりから設備案件の延期もみられた。太陽光発電設備やLED照明は住宅向けを中心に堅調に推移した。医療機器は総じて底堅い動きとなり、インフルエンザ検査キットなどが例年並みとなった。介護・福祉機器は入浴装置や運動療法機器などを中心に堅調となった。

見通し

工作機械は、国内設備投資の緩やかな回復に伴い堅調を維持する見込み。しかし、海外向けは欧州の景気減速を背景に先行き慎重姿勢が強まっており、新規受注の鈍化が見込まれる。また、韓国や台湾製品などとの競争も厳しく、収益下押し要因となる。工場設備向け機器も、新規受注は弱含みとなる見通し。太陽光発電設備やLED照明など省エネ機器は、住宅に加え工場向けも堅調な受注が見込まれる。医療機器は検査装置などが安定的に推移するとみられ、介護・福祉機器も引き続き底堅い推移を見込む。

大型小売　：　生活必需品を中心に、底堅く推移

現　況

百貨店では、11月の気温上昇で伸び悩んでいた秋冬衣料が、12月に入り機能性肌着を中心に動きがよくなり、堅調な推移となった。また、物産展等の催事で食料品が売り上げを伸ばしたほか、お歳暮も前年並みの販売となった。一方、台所用品等の生活雑貨は前年を下回って推移した。スーパーでは、外食を控え家庭で食事をする内食・中食の傾向が増えており、生鮮食品をはじめ、総菜や冷凍食品も底堅い動きとなった。一方、節電対応の防寒商品等に動きがみられたものの、収益への寄与はわずかなものにとどまった。

見通し

百貨店では、消費者の節約志向や、曜日の並びから年末年始休暇が短かった影響が懸念されたものの、正月明けからの衣料品セールはおおむね前年並みを維持した。今後、春先に向けた催事等についても、例年並みの集客が見込まれる。スーパーは、生活必需品の需要は底堅く推移するとみられるが、消費者の節約志向や競合店との価格競争は避けられず、収益面は今後も厳しさが続くことが予想される。節電対応に伴う防寒商品等にある程度の需要は見込まれるものの、気候に左右される面もあり、収益への大きな期待はしにくい。

自動車小売　：　年度末の需要期に向けて販売増加に期待

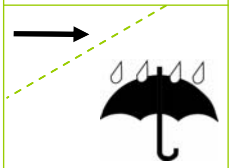
現　況

完成車メーカーの生産が震災の影響からほぼ復旧したことを受け、ディーラーへの車両供給が正常化したため、10-12月の県内新車登録台数はほぼ例年並みの水準まで回復した。ハイブリッド車を中心とする低燃費車への需要は依然好調で、一部車種で納車2～3カ月待ちの状態となっている。中古車は10月以降新車販売が回復したことにより下取り車両が増加し、軽・小型車を中心に販売台数が増加している。輸入車の販売も小型車を中心に好調に推移した。

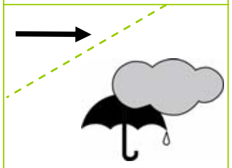
見通し

3月末に終了するエコカー減税の駆け込み需要に加え、各社新型車の発表が相次いだこともあり、新春セール以降ハイブリッド車など低燃費車の販売が好調に推移する見通し。閣議決定されたエコカー補助金も追い風となり、需要期でもある年度末に向けて、販売台数の増加が期待される。中古車の登録台数は引き続き震災に伴う流通量の減少なども懸念されるが、年度末に向けて軽・小型車を中心に底堅い需要が見込まれる。輸入車も小型車を中心に堅調に推移する見込み。

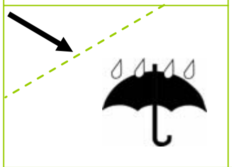
ガソリンスタンド　:　灯油需要に期待するも、収益環境は厳しい

現　況 	低燃費車の普及や顧客が燃料費を節約する傾向は変わらず、10－12月期のガソリン販売数量は低調に推移した。特に個人顧客の需要の落ち込みが大きかった模様。7－9月期と比べ卸価格はやや低下傾向であったが、それ以上にスタンド間の価格競争が激しく利幅が確保しにくい状況となっている。11月から12月にかけて比較的暖かい日が続いたため、灯油販売が伸び悩んだほか、スタッドレスタイヤの販売やオイル交換など、油外サービスへの需要も低調に推移した。
見通し 	不需要期を迎え、ガソリン販売数量の伸びは見込めない見通し。原油価格は不安定な動きが予想される。スタンド間の競争は激しく、卸価格の変動分を小売価格へ転嫁ができない状況が続くとみられ、厳しい収益環境が予想される。灯油販売は本格的な需要期に入ることから、販売量の増加が期待される。補助金事前申請期限の到来により、改正消防法による老朽地下タンクの補修について自己負担分を捻出できない企業は、一部スタンドを閉鎖する動きが予想される。

公共工事　:　労務単価の上昇による採算悪化が懸念される

現　況 	国・県では、出遅れていた発注が本格化し、工事件数・工事量とも前年をやや上回る水準となった。しかし、民間工事の低迷を受けて公共工事の入札競争は依然として激しく、受注環境の改善にまで至っていない。大型工事は、道路・橋梁等の維持・補修案件が中心となっている。業界内では、工期が短い工事が集中したことに加え、東北地域で需要が増加したため、型枠工や鉄筋工等の技能者が全県で不足した。労務費や外注費が上昇傾向で推移しており、採算面は厳しい状況が続いた。
見通し 	県・市町村が今年度に予定している公共工事の進捗状況は、地域ごとにバラつきがあるものの、1－3月期の工事量についても前年度並みの水準が確保される見込み。国発注の工事は、補正予算の執行等により、年度末に向けて増加が期待される。しかし、人手不足の状況が続き、労務単価の上昇もしくは高止まりが見込まれるほか、天候等の影響を受ける冬期の工事はコスト高になることから、収益環境は厳しさを増すとみられる。

民間工事　:　住宅取得支援策に期待するも、低水準にとどまる見込み

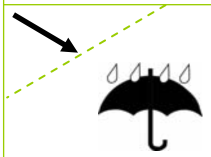
現　況 	民間企業の設備投資は、景気の不透明感に加え、円高の進行などにより依然として慎重姿勢が続いている。新設住宅については、フラット35Ｓ金利優遇幅の縮小により持家を中心に受注は減少した。加えて、消費者の雇用・所得環境に改善の兆しが見えないことから、着工戸数全体では低調に推移した。リフォーム案件は、自治体の助成制度を利用した省エネ機器のほか、水回りやバリアフリーなど一部改修工事が中心となっている。
見通し 	民間企業の設備投資は、景気の先行き不透明感や円高の進行から維持・補修工事等の必要最低限の工事に限られる見込み。一部の製造業では案件が動き出すとみられるが、受注は低調に推移する見通し。新設住宅については、フラット35Ｓ等の優良住宅取得支援制度により、省エネ型住宅を中心に引き合いが見込まれるが、着工戸数全体では低水準にとどまるとみられる。リフォームについては、住宅版エコポイント制度の再開により、断熱改修や耐震化工事などを中心に案件の増加が期待される。

旅　　客　：利用客の出足が鈍く、低調推移を見込む

現　況

観光バスは、秋季行楽シーズンを迎え、例年並みの水準を確保した。また、震災の影響で秋に延期された修学旅行等での受注もあった。高速バスは、休日上限1,000円のETC割引が終了し、マイカーから高速バスへのシフトが期待されたが、利用客は大きく伸びなかった。タクシーは、一部でテレビや映画のロケ地巡り等により利用が増加したが、夜間利用では宴会シーズンを迎えたものの、節約志向により伸び悩んだ。燃料価格は、依然として高い水準にあり、収益を圧迫している。

見通し



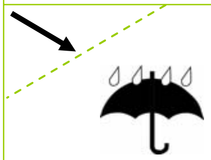
観光バスは、スキーシーズンを迎えたものの、利用客の出足が鈍く、低調に推移することが見込まれる。高速バスは、閑散期であることから低調に推移する見通しだが、受験シーズンを迎えた学生や春休みの利用が期待される。観光バス、高速バスともに業者間の価格競争が激しく、受注確保が難しいことが予想される。タクシーは集客要因に乏しく、依然として利用控えの傾向が続く見通し。燃料価格については、価格上昇による収益の悪化が懸念される。

貨　　物　：貨物量の低迷と燃料価格の高値推移を懸念

現　況

自動車部品は、タイ洪水の影響から一時荷動きが減少した。しかし影響は限定的で、トータルでは堅調に推移した。産業機械関連は設備投資の動きが鈍いことに加え、円高の影響が続き取扱量は低迷した。食品、飲料は年末にかけて歳暮関連を中心に貨物量が増えた時期もあったが、期待したほど活発な動きにはならなかった。天候不順によるりんごの不作などの影響から、青果物は低調な荷動きとなった。燃料価格が高値で推移し、全体の貨物量も低調であったため、厳しい収益環境となった。

見通し



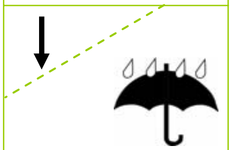
自動車部品の荷動きは、関連企業の生産水準が上向いているため増加する見込み。機械関連は、円高の影響から低水準での推移が見込まれる。食品、飲料は、継続的な受注はあるものの貨物量の増加には至らない見通し。青果物は季節的要因から取扱量が減少する時期となる。全体では好材料に乏しく低調な推移が見込まれる。燃料価格は高止まりが予想されるため、引き続き収益を下押しする見通し。

ホテル・旅館　：集客要因に乏しく、利用は低調

現　況

都市部のホテルでは、観光客の利用は例年並みで推移したが、会議・宴会など団体利用が低調に終わった。ブライダルは需要期ながら、震災後の予約減少により伸び悩んだ。観光地の旅館では、旅行先を東北地方から変更した団体客も多く、10・11月の宿泊客数は前年の観光キャンペーン(信州DC)を上回った。ところが12月に入ると県外客の利用が一服し、地元客の宿泊・宴会利用も低調に推移した。忘年会など企業の団体利用も例年より少なく、12月の売上は前年割れとなった旅館が多い。

見通し



都市部のホテルでは、ビジネス客は前年並みで推移するが、観光客は低調が予想される。企業の新年会利用も前年を下回り、宴会部門は低調推移が予想される。アジア地域からの観光客は戻りつつあるが、欧米地域からの観光客は依然少ない見込み。観光地の旅館では、一部で「長野県スキー発祥100周年」への期待もあるが、低調な予約状況が続く。東北自動車道の無料化や大河ドラマ放映等の要因から、観光の目的地が東北地方や西日本にシフトする動きが強く懸念される。